

導入・課題提示



実践
スタートラインをそろえた!



教材研究
発問の工夫

思考アクティブ化シートB-①課題意識重視

「写真」やペットボトルの「水道の水」、「石狩川の水」を提示することで、きれいな水とにごった水を比較し、川の水が、どのようにしてきれいになったのか疑問をもち、調べてみたい!という気持ちにつながっていた。

見通しをもたせる工夫として、学習課題・問題提示の工夫、展開の工夫を視点にしたが、学習問題の意図とは違い、水に対する疑問にとどまっていた。きれいな水になるまでの経路や浄化についての気づきが弱かった。



【4年生 社会科】水はどこから

【本時の目標】

身近な存在である水が屈仕組に関心をもち、水が屈けられる経路や水をきれいにする仕組みについて、主体的に調べ、考えようとする意欲をもつことができるようにする。

学習問題について



子供の疑問!
知りたい!
やってみよう!
↓
学習問題

学習問題ができてから、子供たちの疑問が多数出てきた。どのようにしてきれいな水になったのか、という疑問をゆきぶり、調べて解決したいという意欲を導き出す「アクティブ化ポイント」を大切に、児童の疑問を意図的に板書で整理する必要があった。

研究内容 1

子供たちの発言・整理・分類
教師のスキル



振り返りを、なぜ位置づけるのでしょうか?

見通しとは、おおよその結果や調べ方、調べる対象などが見えていることです。このため、子供たちの疑問をカテゴリー別に分けたり、色分けをしたりして、子供の見通しにつながる板書をする必要があります。具体的な見通しをもたせるために、にごって飲めない水なのに、私たちが安心して飲めるようになったのは、「浄水場が関係しているのでは?」「川と浄水場はつながっているのか?」「洗剤できれいにしているのか?」「交代で仕事をしているのかな?」などについて、学習問題の前に、子供たちの疑問を掘り下げていくと思考が深まったのではないのでしょうか。